

平成26年度 新潟市外国語活動部 活動報告

部長 石附 直己（新潟市立竹尾小学校）

1 研究主題

進んでコミュニケーションを図ろうとする子どもの育成
ーよりよいコミュニケーション活動の在り方ー（六年次）



2 研究の概要

研究主題を具現するために、以下の二点について授業
研究を通して研修を進めた。

- ・研究主題につながる効果的な学習活動・指導方法を検証する～「思い」の交流を視点として～
- ・研究主題につながる評価の在り方

3 研究の実際

市内小学校部員103名を地域別に2ブロックに分け、各ブロック1回ずつ、研究授業及び授業協議会を実施した。

○Aブロック 5年「What's this? クイズ大会をしよう」南中野山小教諭 江端正昭

授業のねらいは、宝物クイズの練習を通して、宝物について積極的に何かを伝えたり尋ねたりしようとするのであった。まず、ALT に自分の宝物について知ってもらうために、クイズの練習をすることを確認し、使ってほしいフレーズを発話させた。

クイズの題材を「宝物」にしたことで、児童は意欲的にクイズに答えようとする姿が見られた。また、普段あまり関わる機会のないメンバーでグループを構成することで、コミュニケーションの幅を広げることができた。さらに、答える児童に宝物の絵を描かせることで、情報を得るための対話が増え、より多くのコミュニケーションを生むグループも見られた。

○Bブロック 5年「宝物クイズ大会をしよう」巻北小教諭 堀切七恵

授業のねらいは、宝物クイズ大会で、クイズを出したりクイズに答えたりする活動を通して、積極的に何かを尋ねたり答えたりしようとするのであった。児童は、一人一人が話し方・聞き方のめあてを立てていた。教師は、発話しやすいフレーズを紹介したり、非言語表である身振り手振りやうなずきを使わせたりした。

その結果、本時では、相手のクイズをよく聞き、答える姿が多く見られた。振り返りカードは、単元を通した1枚のものであり、児童自身に学習の記録が見えるものであった。「聞く・話すこと」と「気付き」を書く欄が別に設けてあり、自己評価できるような工夫がなされていた。

※ この他、新潟市立総合教育センター指導主事の佐藤貴子様のご講演、新潟市中教研英語部との合同研修会、千葉大学教育学部准教授の本田勝久様のご講演、研究授業に関する情報交換、全会員による一人一実践の交流等の研修を実施した。

4 成果と課題

二つの研究授業から、効果的な学習活動や指導方法、評価方法について学ぶことができた。学習活動については、「自分の宝物」など、児童にとって興味のある題材を取り上げて紹介し合うコミュニケーション活動を設定すること、交流を促すために意図的なグループ編成をすることが重要であることが明らかになった。指導方法については、コミュニケーション活動の対象をALTにして、英語を使う必然性をもたせたり、相手を意識した聞き方・話し方を考えさせたりすることも有効であることが分かった。評価方法については、振り返りカードを単元で1枚にし、「聞く・話すこと」と「気付き」を書く欄を別に設けることが効果的であることが分かった。

今後の課題として、「思いを伝える」「思いを受け取る」といったコミュニケーションの本質に迫る活動内容を工夫すること及び、「積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿」につながる評価の在り方を追究していきたい。